



米国穀物レポート コーン・大豆

2015年6月11日

日本テクニカルアナリスト協会

検定アナリストCFTe

玉川博一

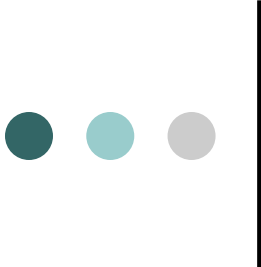
6月発表USDA需給報告

概要と分析

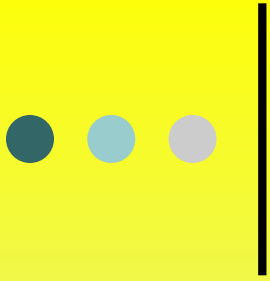
出所: 米国農務省



 岡安商事株式会社



このレポートは投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。先物取引は大きなリスクを被る恐れがあり、すべての投資家に適切な取引ではありません。また、銘柄の選択および投資の最終判断およびその責任はお客様自身でなさるようお願い致します。このレポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、岡安商事(株)および執筆者は、この正確性、完全性、適時性に関する責任を負いません。このレポートに示した意見は、レポートの作成日現在の意見を示すものです。チャートラインなどには、執筆者の主観が入っている場合があります。商品先物取引は元本が保証されているものではなく、短期間で大きな利益を得る可能性もありますが、投下資金の数十倍以上の額を取引する証拠金取引であるため、相場の変動により投下資金以上の損失が生じることもあります。お取引にあたっては充分にご検討下さい。当社ディスクローズ資料は当社本支店または日本商品先物取引協会でご覧いただけます。



とうもろこし (Corn)



6/10日USDA発表

2015／16年度米国コーン

作付面積	: 8920万エーカー	(8920万エーカー)
収穫面積	: 8170万エーカー	(8170万エーカー)
単 収	: 166. 8Bu	(166. 8Bu)
期首在庫	: 18億7600万Bu	(18億5100万Bu)
生 産	: 136億3000万Bu	(136億3000万Bu)
輸 入	: 2500万Bu	(2500万Bu)
供給合計	: 155億3100万Bu	(155億0600万Bu)
飼料用	: 53億0000万Bu	(53億0000万Bu)
食品・種・工業用	: 65億6000万Bu	(65億6000万Bu)
内エタノール	: 52億0000万Bu	(52億0000万Bu)
輸 出	: 19億0000万Bu	(19億0000万Bu)
消費合計	: 137億6000万Bu	(137億6000万Bu)
期末在庫	: 17億7100万Bu	(17億4600万Bu)
在庫／消費率	: 12. 9%	(12. 7%)

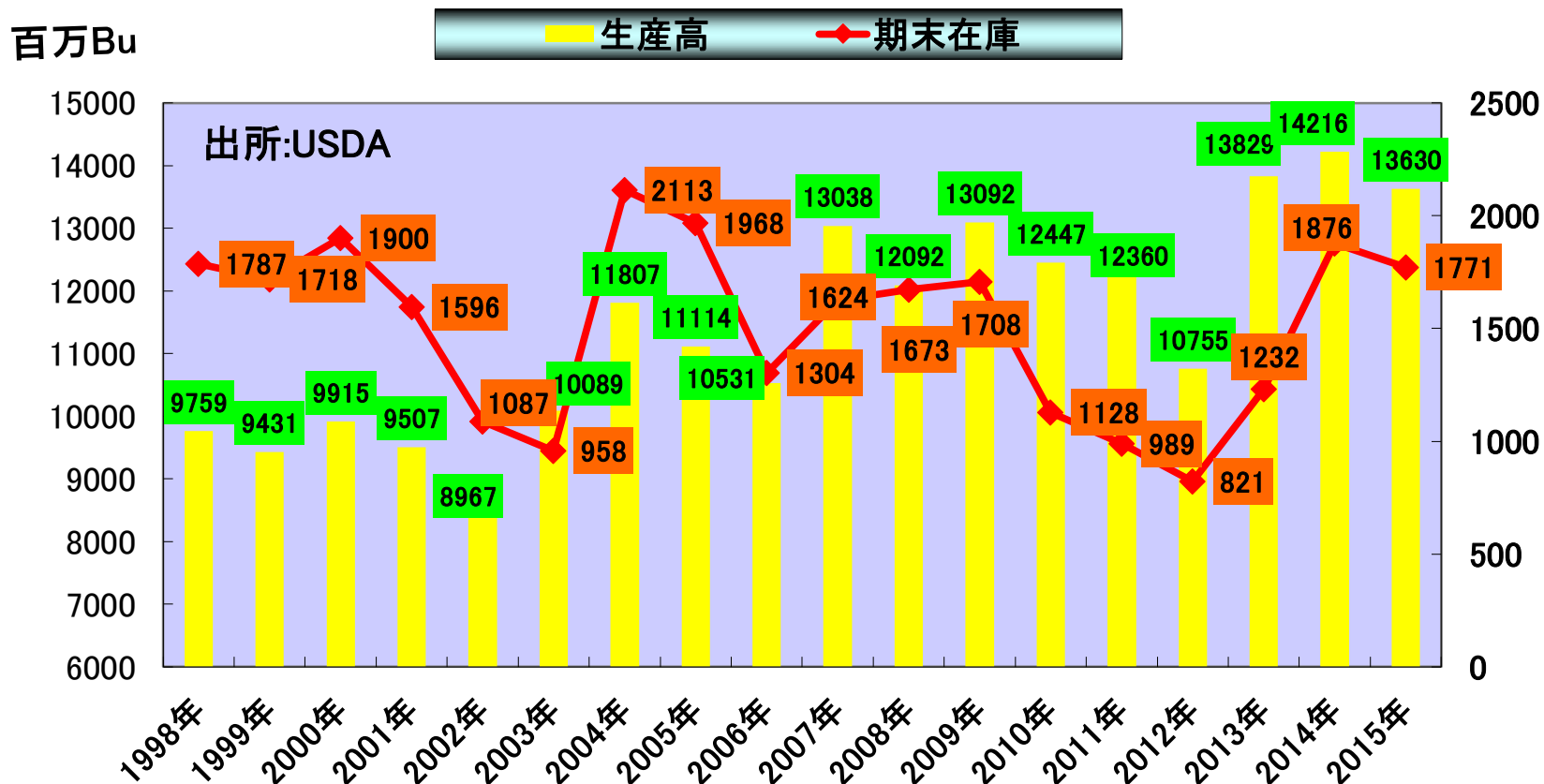


米国コーン期末在庫は 旧穀、新穀とも2500万Buの上方修正。

- 2014/15年エタノール需要の2500万Bu引き下げで期末在庫は上方修正。
 - USDAから発表された穀物需給報告によると、供給サイドの数字はすべて据え置きとしました。需要面で旧穀工業用の内エタノールを2500万Bu引き下げ、その結果米国コーン2014/15年期末在庫は、18.76億Buとなり、新穀の期初在庫が積み増しされて、2015/16年期末在庫は、17.71億Buと、予想平均17.58億Buを上回り、前月から+2500万Buの上方修正となりました。

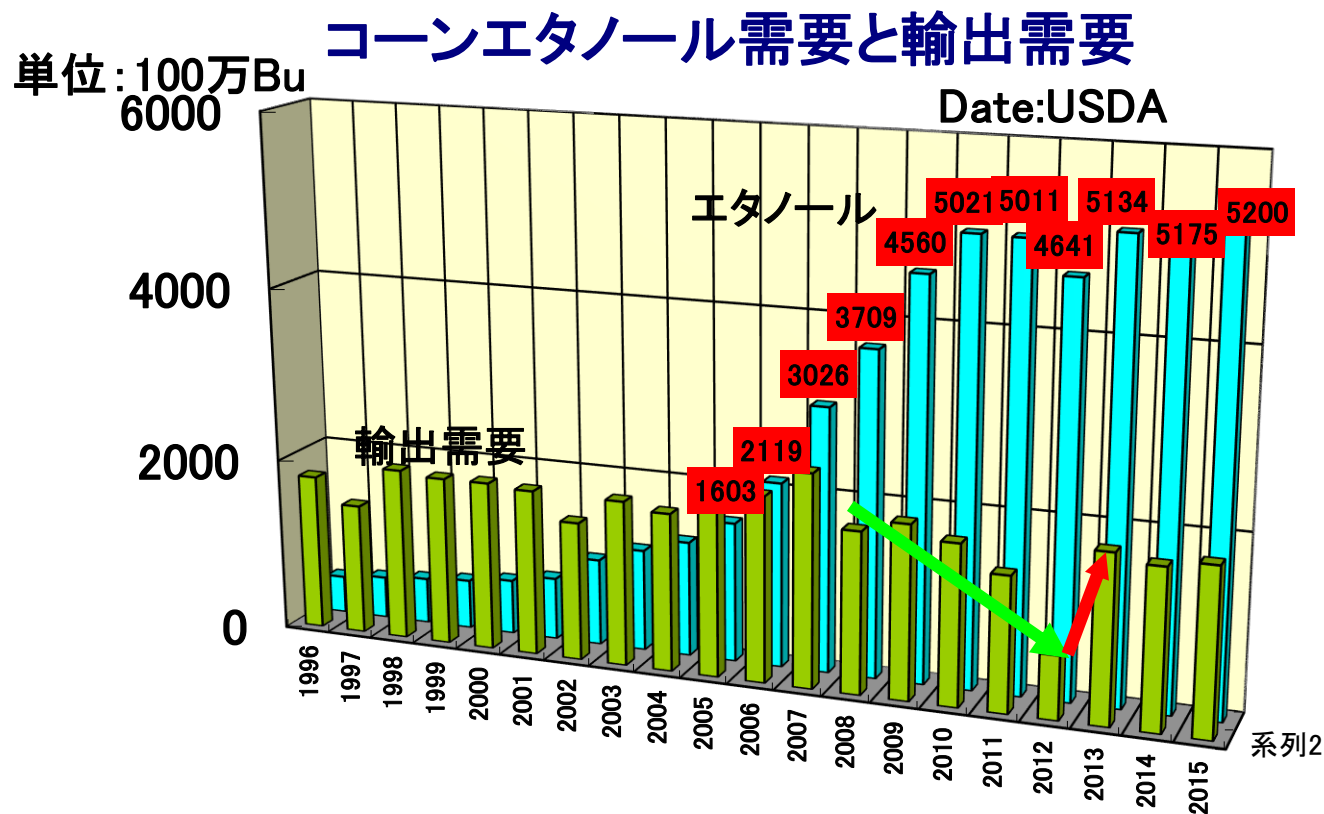
米国期末在庫は、2500万Buの上方修正

米国コーン生産高と期末在庫



エタノールと輸出需要推移

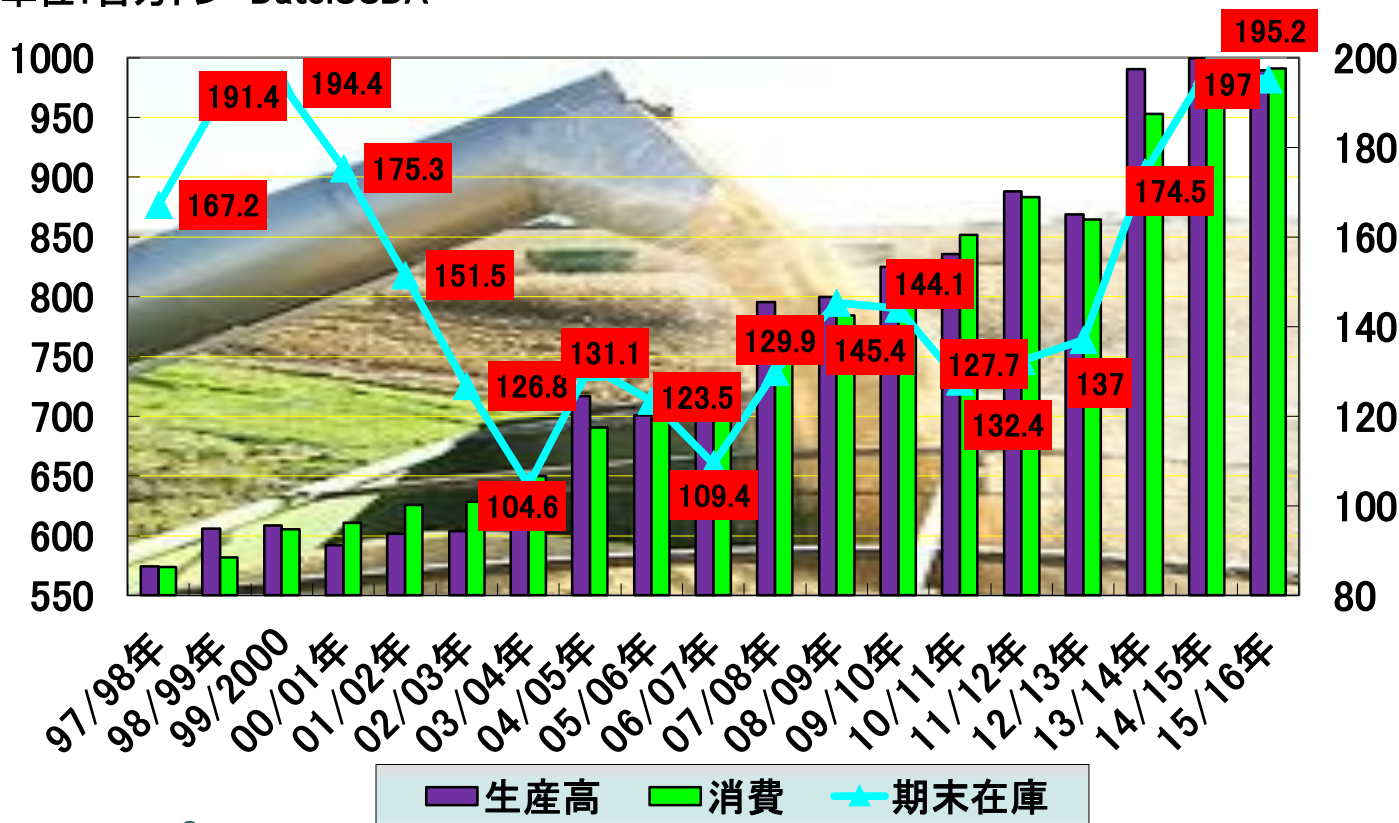
数年横ばいが続く。



2014/15年世界期末在庫は1億9701万トン 2015/16年世界期末在庫は1億9518万トンに 上方修正

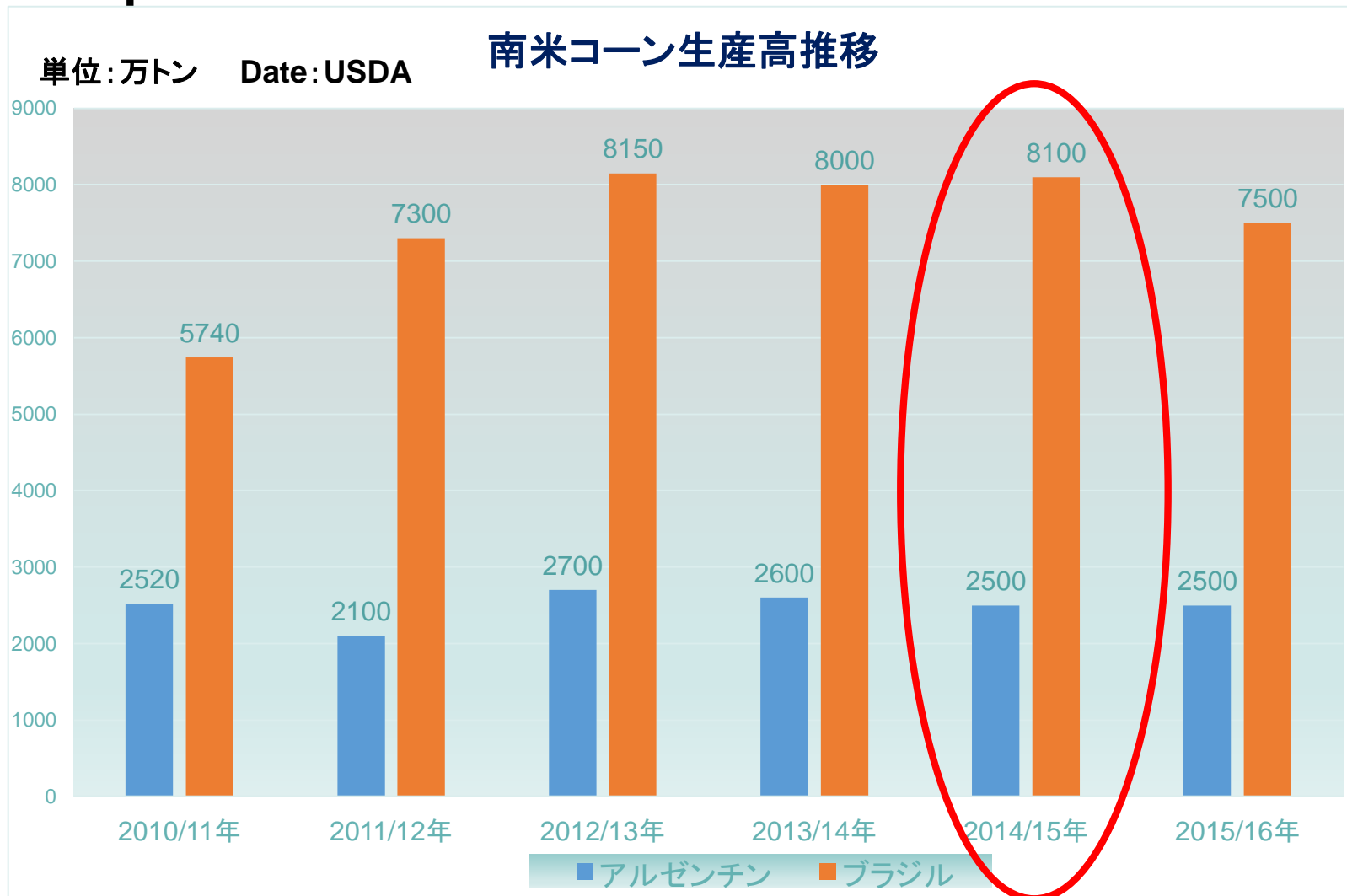
世界コーン需給

単位:百万トン Date:USDA



南米コーン生産高推移

2014/15年南米生産上方修正



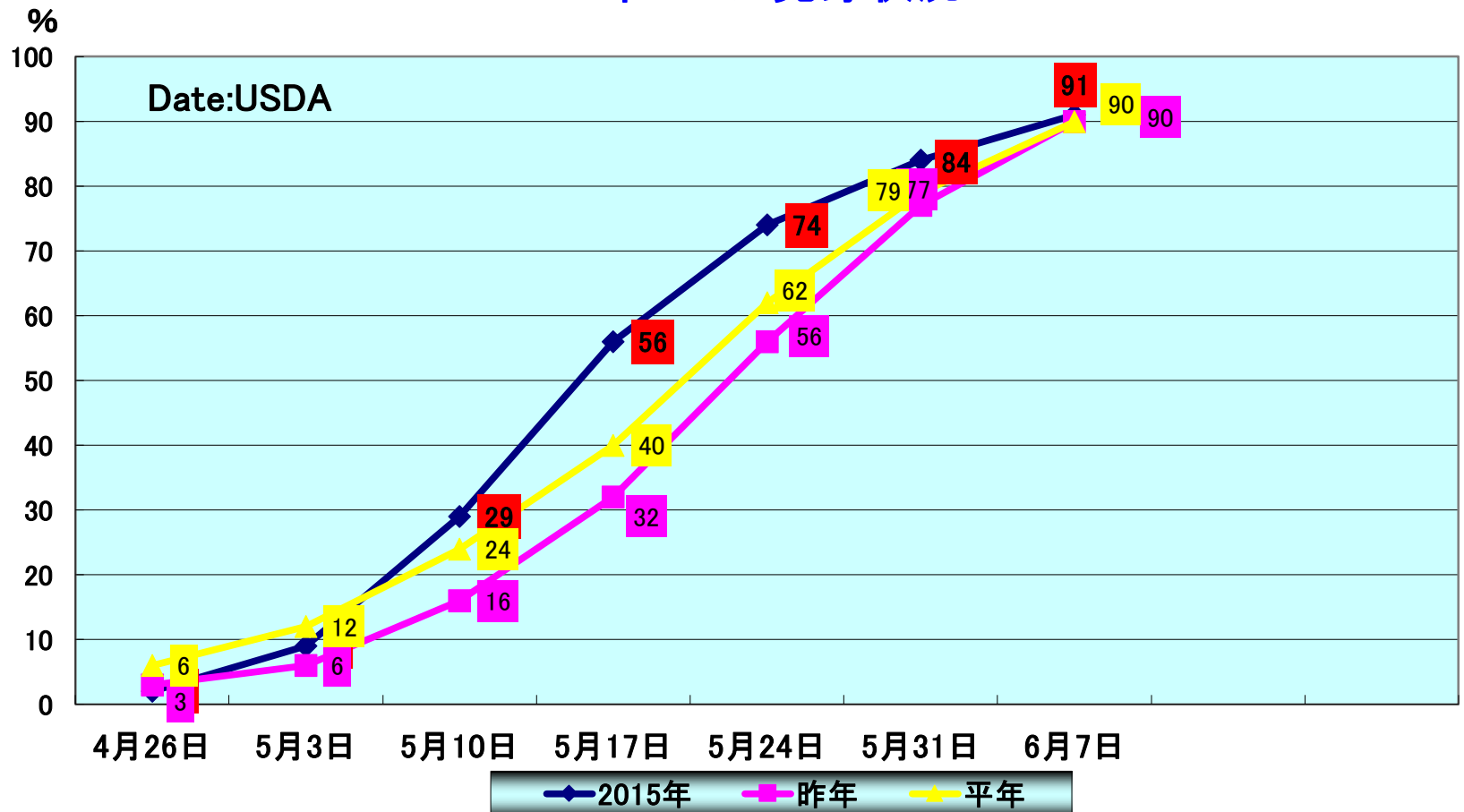


世界コーン需給

- 2014/15年世界コーン生産高は、アルゼンチン生産高が+50万トン(2450→2500万トン)、ブラジル生産高が+300万トン(7800→8100万トン)の上方修正で2014/15年世界コーン期末在庫は1億9700万トン(予想平均1.924億トン)と前月から450万トンの上方修正となり予想を上回りました。新穀2015/16年世界期末在庫は1億9518万トン(予想平均1.918億トン)と+325万トンの上方修正となり予想を上回りました。

作付も発芽もほぼ終了

2015年コーン発芽状況





結論

- 今回のUSDA発表では、米国に関しては旧穀のエタノールの引き下げだけで、材料にならず、世界需給では、旧穀の南米生産高が引き上げられやや弱材料といえる。月末の作付面積の発表、来月のイールド見通しの修正で来月から供給面の数字が弄られることになるが、作付、発芽がほぼ順調に終了し、6/7現在の作柄状況の優+良の比率も74%となっており、今のところ足元の生育状況にさしたる問題はなく、強気できる状況ではない。

東京コーン先限日足

JGCC (東京とうもろこし) - 日足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2015/06/11 L=25,200 +40 +0%



大豆 (SoyBean)



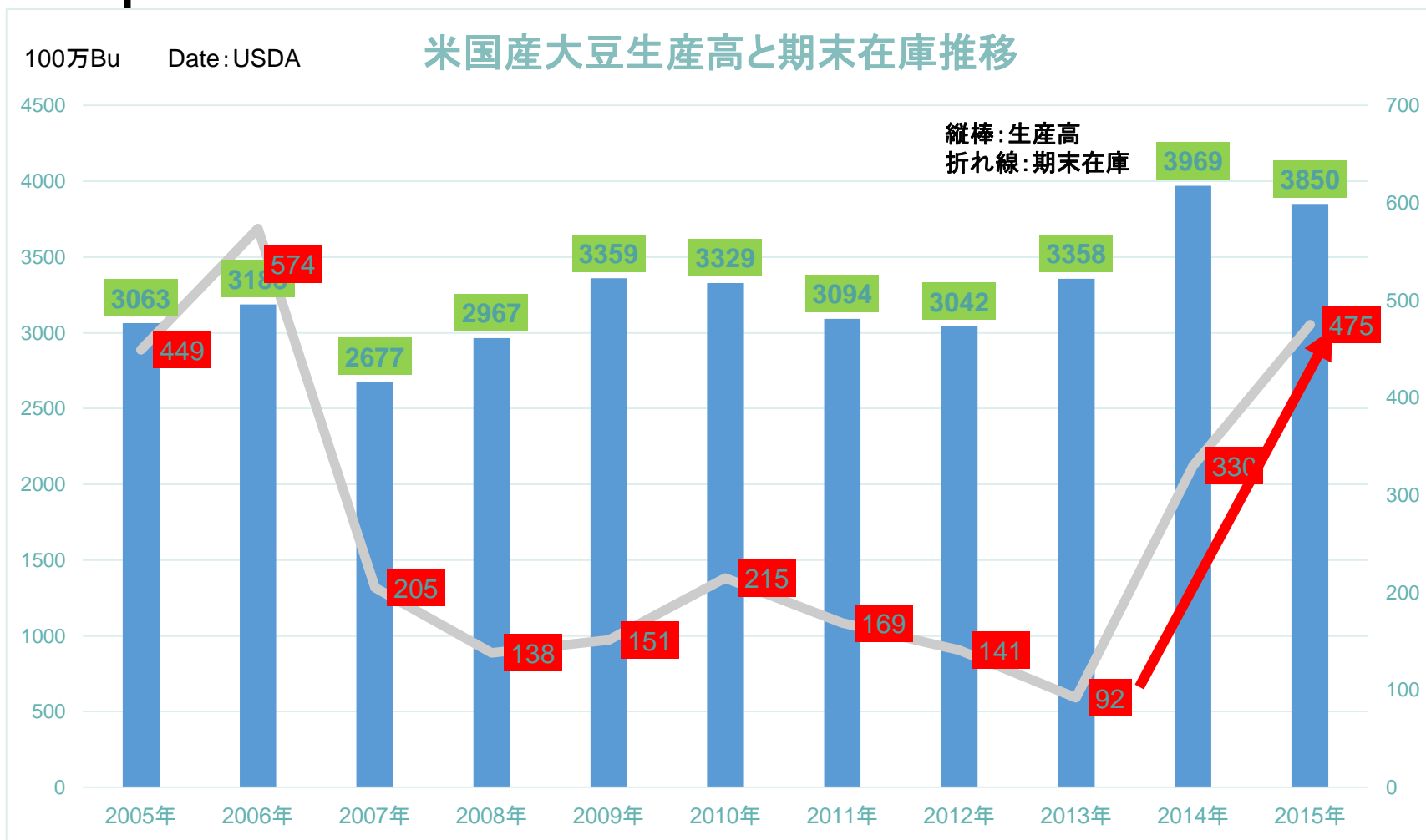
6/10発表USDA大豆需給報告

期末在庫は4億7500万buに下方修正

2015／16年度

作付面積:	8460万エーカー	(8460万エーカー)
収穫面積:	8370万エーカー	(8370万エーカー)
単収	: 46.0Bu	(46.0Bu)
期初在庫:	3億3000万Bu	(3億5000万Bu)
生産	: 38億5000万Bu	(38億5000万Bu)
輸入	: 3000万Bu	(3000万Bu)
供給合計:	42億1000万Bu	(42億3000万Bu)
圧砕	: 18億3000万Bu	(18億2500万Bu)
輸出	: 17億7500万Bu	(17億7500万Bu)
種子その他:	1億3000万Bu	(1億3000万Bu)
消費合計:	37億3400万Bu	(37億2900万Bu)
期末在庫:	4億7500万Bu	(5億0000万Bu)
在庫率	: 12.7%	(13.4%)

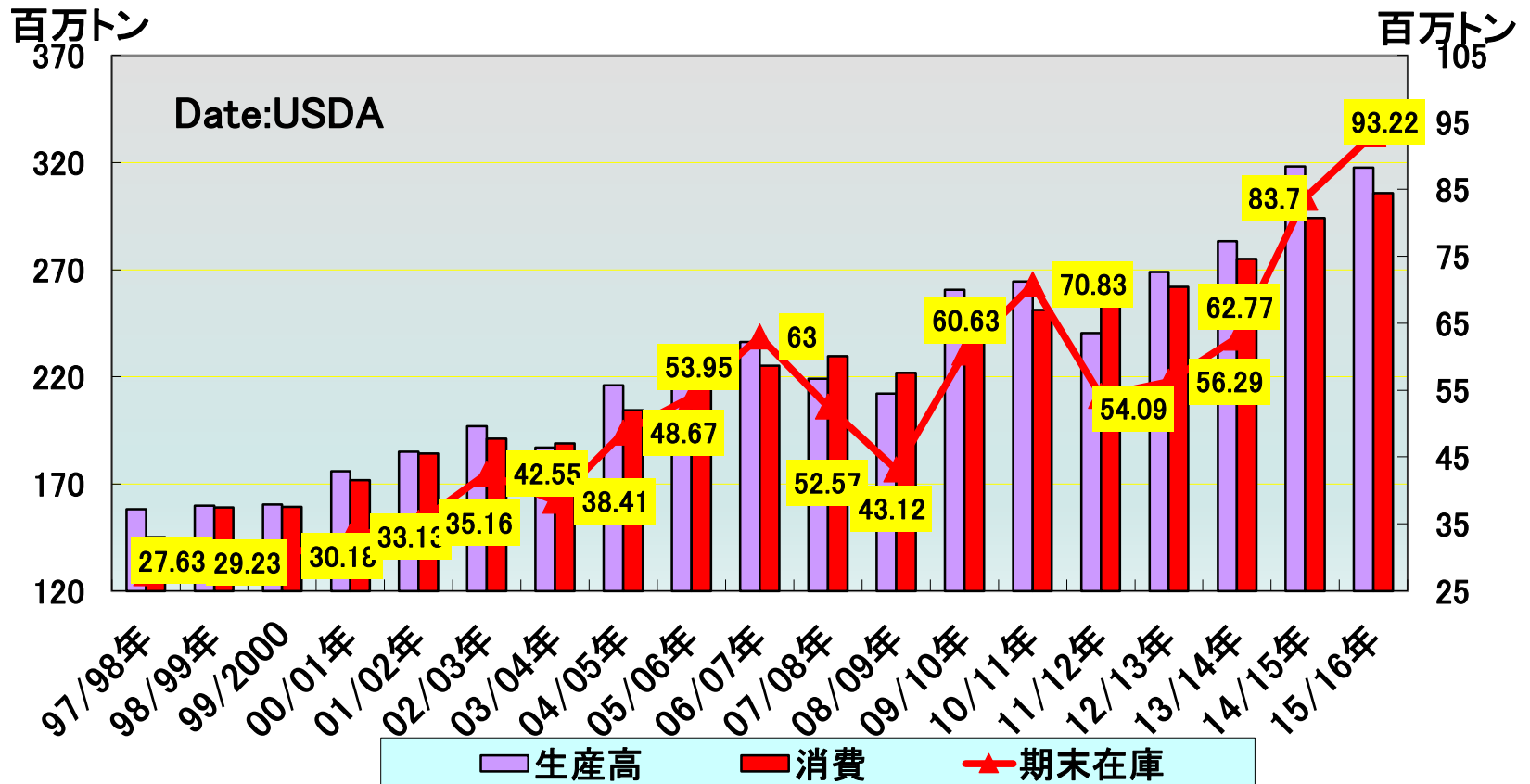
2015/16年米国期末在庫は2500万Buの下方修正



世界大豆需給推移

2015/16年世界期末在庫も2年連続で過去最高更新見通したが、前月から300万トンの引き下げ。

世界大豆需給





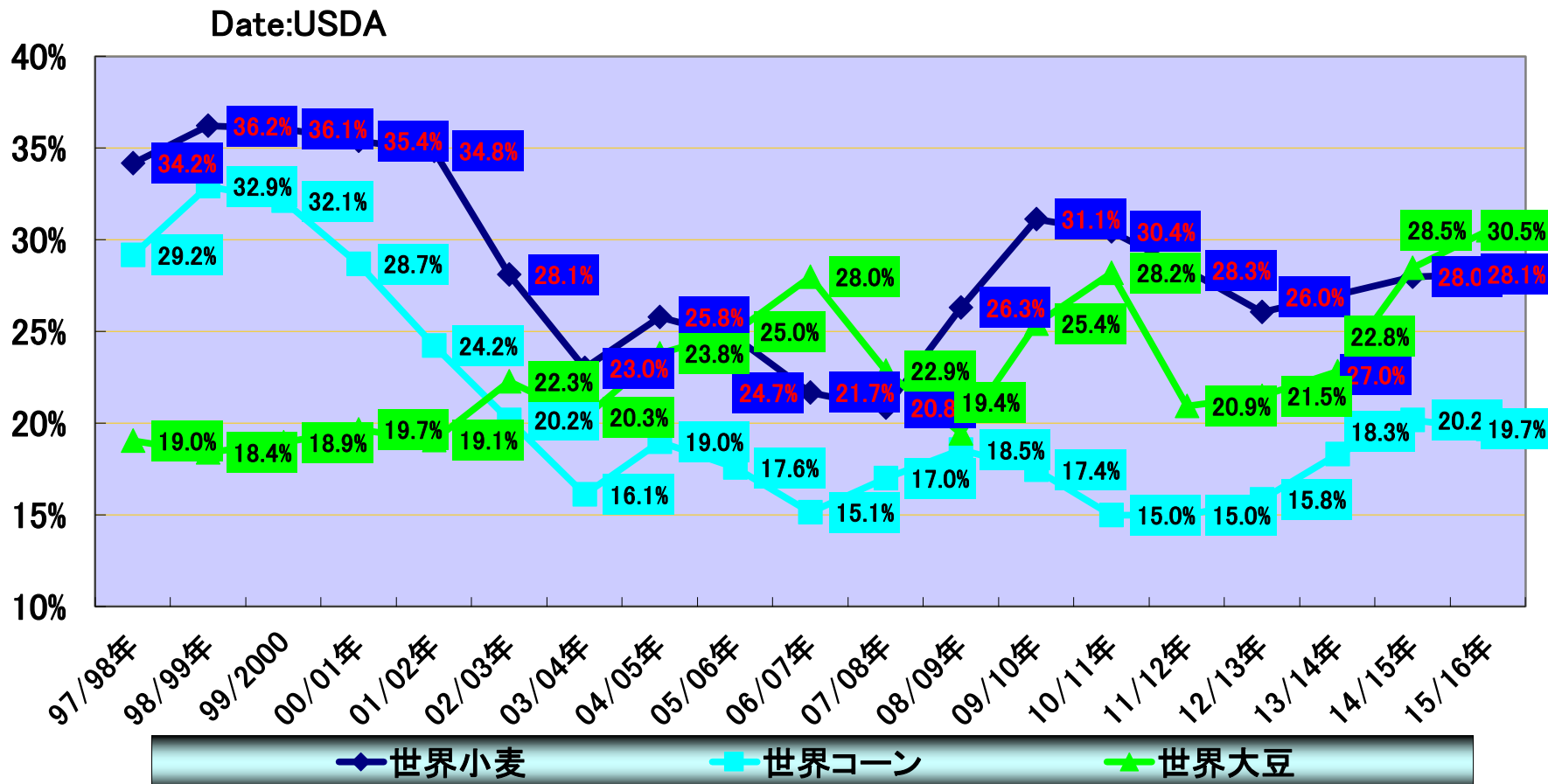
世界大豆需給

- 2014/15年度世界大豆生産見通しは3億1825万トンと前月から100万トンの上方修正となりました。アルゼンチン生産高が+100万トン(5850→5950万トン)に増産、ブラジル生産高が9450万トンに据え置きとなりました。2014/15年世界大豆期末在庫は、予想8600万トンを下回り、8370万トンと180万トンの下方修正となりましたが、過去最高であることに変わりはない。2015/16年世界大豆期末在庫も前月から300万トン引き下げ9322万トンとなりましたが、2年連続で過去最高を更新する見通しとなっている。

世界穀物在庫率推移

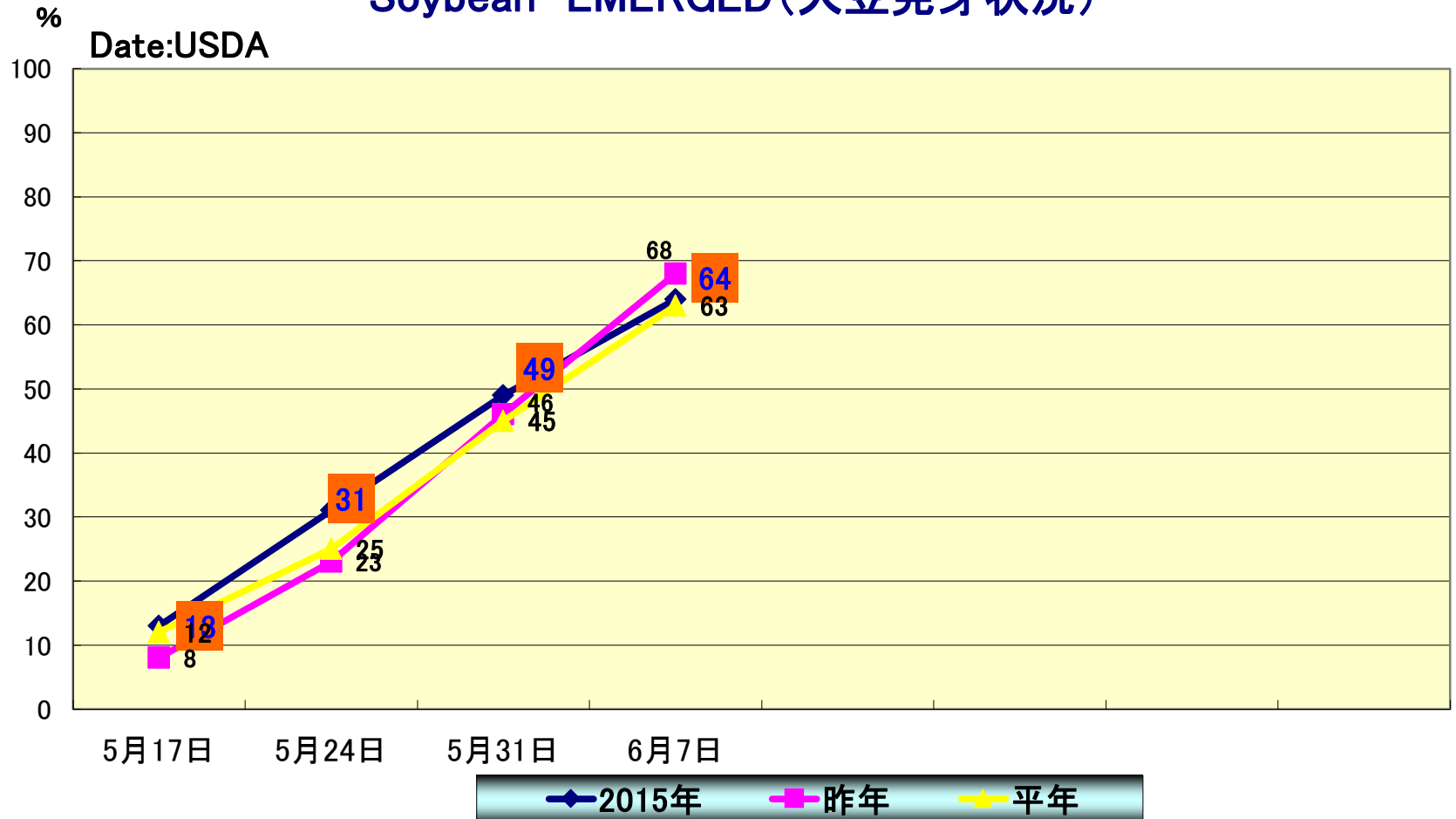
穀物の中で一番大豆が需給緩和がすすむ。

世界穀物在庫率比較



米国大豆作付、発芽は平年通り順調

Soybean EMERGED (大豆発芽状況)





結論

- 旧穀の圧砕、輸出で+2000万Bu、新穀の圧砕で+500万Buの引き上げで新穀米国大豆期末在庫が2500万Bu引き下げられ、予想平均を下回りやや強気の数字と言えなくもないが、新穀の米国、世界とも期末在庫は、前年から大幅に増加する見通しとなっている。世界大豆期末在庫は、史上最高の数字で在庫率も小麦を上回り穀物の中で一番需給緩和がすすむ。
- 今年度6/7現在の大豆作付状況79%と発芽率64%とほぼ平年並で推移しており、現状の作柄も特段の問題はなさそうだ。

一般大豆先限日足

JGSS (東京一般大豆) - 日足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2015/06/11 L=52,740 +150 +0%





商品先物取引業者：岡安商事株式会社

【本店】

TEL:06-6222-0001 FAX:06-6203-7700

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-3-8

【東京本部】

TEL:0120-342825 FAX:03-5641-1725

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-1-1

日本商品先物取引協会会員
経済産業省 平成22・12・22商第6号
農林水産省指令22総合第1351号

- ・お客様相談窓口
大阪本社管理部
TEL:0120-346-492
東京統括店管理部
TEL:0120-182-461
- ・商品先物取引苦情相談センター
日本商品先物取引協会(東京)
TEL:03-3664-6243



- ・当社の企業情報は、当社本支店及び日本商品先物取引協会またはそれぞれのホームページで開示されています。
- ・商品先物取引は委託に際して委託者証拠金の預託が必要になります。最初に預託する委託者証拠金の額は商品により異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高165,000円、最低10,000円です。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高1,150,000円が必要となります。
- ・商品先物取引による取引の額は、最初に預託する委託者証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、対面通常取引の場合は委託者証拠金の額の約10倍から約45倍、対面損失限定取引(スマートCX)の場合は委託者証拠金の額の約2倍から約10倍の額にもなります。
- ・商品先物取引は、相場の変動によって利益も損失も生ずるおそれのある取引です。また、委託者証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その利益や損失も預託している委託者証拠金等の額に比べると高いものとなることがあります。
- ・商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高8,100円、最低540円(片道税込み)です。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高12,150円、最低1,555円(片道税込み)が必要となります。(平成27年6月1日現在)